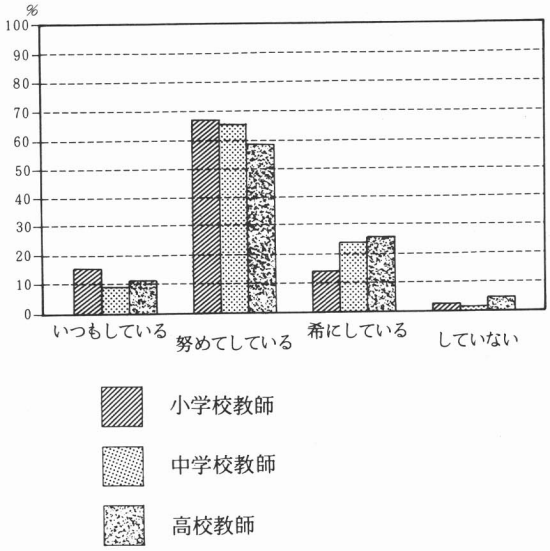
図1と図2との今後から，児童生徒の学級の仲間から認められたいという意識が低いのは，前提となる友人関係がつくられていないために，友人を作るという方向に意識が向いているのであろう。

図3

【教師】　特別活動の時間などを活用して，子どもたちが互いに親しみ，心のふれ合いが持てるように工夫していますか。



このような状況において，教師は児童生徒の所属や愛情の欲求を満たしていくために，どのようにかかわっているか，図3～図5の教師側のデータから考えてみた。

図3から，「いつも」「努めて」を合わせると，小学校83%，中学校75%，高等学校70%である。

教師は，特別活動の時間などを生かして，望ましい人間関係づくりをめざした学級のふれ合いの場を工夫していることが分かる。

図4でも，「いつも」「努めて」を合わせると，小学校91%，中学校81%，高等学校72%といずれも集団活力の中で個性の伸長を図るために子どもに意図的にかかわるよう努めている。

図4

【教師】　集団の活力の中で子どもの個性や長所が認められ伸ばされ，鍛えられていくよう心がけていますか。

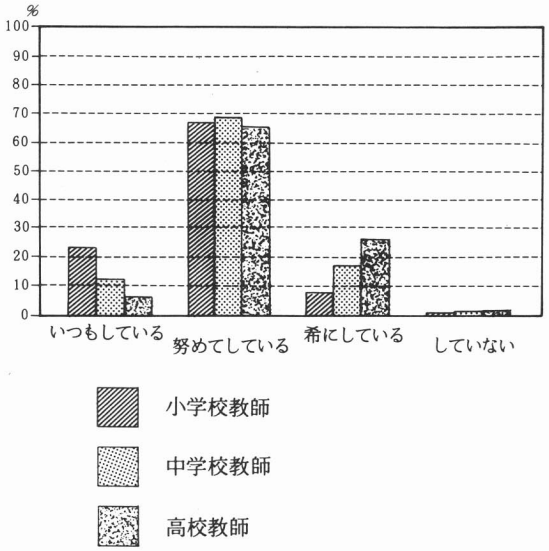
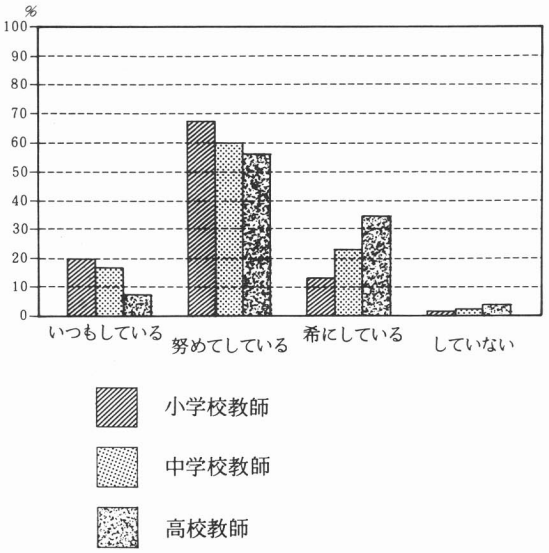


図5

【教師】　学級内の子ども一人ひとりの係活動を大切にし，活動しやすいように側面からの援助を心がけていますか。